

教育研究業績書

2017年05月29日

所属：幼児教育学科

資格：講師

氏名：小尾 麻希子

| | |
|------------|----------------------------------|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 幼児教育学, 保育学 | 幼児教育カリキュラム, 幼稚園教育実践史, 保育実践研究 |
| 学位 | 最終学歴 |
| 修士 (学術) | 神戸大学大学院総合人間科学研究科人間発達科学専攻博士前期課程修了 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--|-------------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. 「教育演習」における「研究集録」の作成と研究協力園へのフィードバック | 2016年04月～現在 | 市内の公立・私立幼稚園における継続的な保育観察を通して、特に、幼児同士の育ち合い及びその過程に働きかける教師の役割について重点的に学ぶ機会を設けている。観察記録に基づいて討議し、「研究集録」を作成。研究成果は、武庫川女子大学教育研究会研究発表会にて発表。また、研究成果は観察園の園長・教員へフィードバックし、助言を得て、次年度の卒業研究へとつなげている。 |
| 2. グループワークによるポートフォリオ作成・発表を重視した授業「保育内容総論」 | 2015年04月～現在 | ・幼稚園・保育所における実践事例や映像を介し、子どもの発達に即した保育内容及び実践化への理解を深める取り組みをしている。 ・各グループで選択したテーマに基づいて、その保育内容と展開方法を構想する授業スタイルを重視している。グループワークによる「調べる・話し合う・ポートフォリオとしてまとめる・発表する」といった一連の過程を重視し、学生の保育構想力向上に向けた取り組みを行っている。 |
| 3. 保育観察・保育実践に基づいた実践演習・実践研究「教育演習・卒業研究」 | 2015年04月～現在 | 「教育演習」及び「卒業研究」では、市立幼稚園・私立幼稚園と連携を図りつつ、保育観察及び保育実践に基づいた演習・実践研究を展開。観察記録、記録に基づく討議、資料作成、観察した実践につながる保育構想、保育実践など、実践に基づいた学びを重視している。 |
| 4. 附属幼稚園・市立幼稚園との連携に基づいた実践演習「保育・教職実践演習」 | 2014年09月～2016年03月 | 短期大学部「保育・教職実践演習」において、附属幼稚園・市立幼稚園との連携に基づいた保育実践演習を実施。本授業において学んだ幼児理解・保育者の役割・保育内容と方法・指導計画作成・保育展開等に関する事項を、幼稚園にて実践し、理論・演習・実践の統合を目指した。 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 1. コンパクト版保育者養成シリーズ「教育・保育課程論」 | 2017年03月 | 幼稚園・保育所における教育課程・保育課程・指導計画について述べた教科書である。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆。「幼稚園教育要領」と教育課程の関係性、指導計画の意義、指導計画の実際と作成上の留意点の観点から、幼稚園における教育課程と指導計画について論述した。(谷田貝公昭・石橋哲成監修・一藝社) |
| 2. 研究集録(平成28年度)『継続的幼稚園観察から捉えた「協同的な学び」を育む保育の構造』 | 2017年03月 | 平成28年度「教育演習」における研究の成果を、「教育演習」に所属する教育学科3年生ゼミ生と共にまとめた研究集録である。市立幼稚園における継続的な保育観察を通して、幼児同士の「協同的な学び」を育む保育の過程を明らかにした。また、複雑な様相を織りなすその保育の構造を、「保育構造図」として提示した。 |
| 3. コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論」 | 2017年02月 | 幼稚園・保育所における保育内容の歴史、保育内容を考える視点とその評価、乳幼児の発達に応じた保育内容など、保育内容全般について解説した教科書である。第13章「5歳児の保育内容」を執筆。協同的な遊びの側面に焦点を当て、5歳児の保育内容について論述した。(谷田貝公昭・石橋哲成監修・一藝社) |
| 4. コンパクト版保育者養成シリーズ「保育者論」 | 2016年03月 | 保育者の制度的な位置づけ、倫理感、役割と専門性、協働と専門職的成長について述べた教科書である。第10章「現代における望ましい保育者像」を執筆。筆者によるアンケート調査結果より、各経験年数・立場から捉えた「望ましい保育者像」と、その相違によって、望ましいと考える保育者像がどのように変容していくのかを提示し、保育者の専門職的成長プロセスについて論述した。(谷田貝公昭・石橋哲成監修・一藝社) |
| 5. 平成18年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」 | 2007年03月 | 平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。3歳児の年間指導計画、月別指導計画(4月～3月)、週指導計画例各1編を執筆した。(兵庫教育大学附属幼稚園) |
| 6. 兵庫教育大学文化教育資料館「3歳児保育指導案」 | 2007年03月 | 平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園において作成した3歳児学級指導案2編を兵庫教育大学教育文化資料館にて所蔵・公開している。 |
| 7. 平成17年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」 | 2006年03月 | 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|---|-------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 計画」 8. 平成16年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」 | 2005年03月 | 歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。4歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画例1編を執筆した。（兵庫教育大学附属幼稚園） 平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。5歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画例1編を執筆した。（兵庫教育大学附属幼稚園） |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 地域連携活動「図書館との連携によるおはなし会」 | 2017年04月～現在 | 教育演習及び卒業研究に所属する学生による「おはなし会」を地域の図書館において月に1度開催している。絵本の読み聞かせや学生による手作り教材及び音楽を活用したストーリー展開などを主な内容として、子ども達とコミュニケーションを図っていく会である。図書館職員との連携を図りつつ、地域に住む子どもの遊び・学びの場づくりに寄与することを目指している。 |
| 2. 高大連携授業 | 2016年09月 | 高大連携の一環として、武庫川女子大学附属高校3年生ELコース45名の生徒を対象に2回にわたって授業を実施した。幼稚園における保育実践の映像・実践事例を提示しつつ、保育者という職業の魅力を伝えていった。グループワークを取り入れ、討議を通して学びを深める授業を試みた。 |
| 3. 地域連携活動「図書館との連携によるワークショップ」 | 2015年04月～現在 | 教育演習及び卒業研究に所属する学生によるワークショップを地域の図書館において年に2回開催している。パネルシアターやペープサートなどの手作り教材を用いたお話会及び上演した物語につながる造形遊びなど、学生の構想に基づいたワークショップである。子どもの遊び・学びの場づくり及び学生の保育構想力・実践力の向上を目的としている。 |
| 4. 大学・附属幼稚園教員による共同実践・研究「幼稚園における英語遊び」 | 2005年04月～2007年03月 | 兵庫教育大学教員との共同実践・研究により、幼稚園における英語遊びプログラムを実践するとともに、幼稚園教育課程に英語遊びプログラムを位置づけた。 |
| 5. 大学・附属幼稚園・地域幼稚園教員・保育士による共同実践研究（保育内容・方法） | 2004年04月～2007年03月 | 「幼年教育研究会」（年間3回開催）において、公開保育及び研究発表を行った。また、保育実践の質的向上を目指し、兵庫教育大学教員や同附属幼稚園教員、地域の幼稚園教員、保育士とともに研究テーマに基づいた研究協議や実践報告等を積み重ねた。 |
| 6. 大学・附属幼稚園・小学校教員による共同実践・研究「幼小連携教育」 | 2004年04月～2005年03月 | 兵庫教育大学・同附属幼稚園・同附属小学校教員による共同実践・研究により、幼小連携教育を推進した。研究成果は、幼小教員による合同保育・授業と合同研究発表会において公開し、幼小交流実践における子どもの学びと学びの過程を示した。また、兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要及び同附属小学校研究紀要等において発表した。 |
| 4 その他 | | |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|---|-------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 | | |
| 1. 幼稚園教諭専修免許状 2. 小学校教諭専修免許状 3. 保育士資格 | | |
| 2 特許等 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 文部科学省研究開発「親育てプログラムとその評価システムの開発による幼稚園の教育課程及び地域の子育てに関する研究開発」 | 2006年04月～2007年03月 | 文部科学省より研究開発の指定を受け、幼稚園における「親育てプログラムとその評価システム」の開発と幼稚園教育課程への位置づけを行った。また、同プログラムを地域子育て支援の一環とする試みを行った。同プログラムは、保護者の保育参加、子育て講演会、子育て相談等から構成され、評価システムは、保護者の子育て意識の変容を捉える視点から開発し、文部科学省へ報告書を提出した。（兵庫教育大学附属幼稚園） |
| 2. 文部科学省海外派遣「国際的な視野・識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修（派遣先：フィンランド・スウェーデン）」 | 2005年11月 | 文部科学省海外派遣研修において、フィンランド・スウェーデンの就学前教育や初・中・高等教育・特別支援教育の実情を視察し、文部科学省へ報告書を提出した。報告書においては、特に、視察国の就学前教育の実情に基づいて、日本の就学前教育の展望について言及した。 |
| 3. 文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会研究発表 | 2004年11月 | 平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会において、兵庫県代表として研究発表を行った。協議会主題C「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりする物的・空間的環境の構成」及びその幼稚園教育課程編成について発表した。 |
| 4 その他 | | |

| 職務上の実績に関する事項 | | | | |
|-----------------------------------|---------|-----------|-------------------|--|
| 事項 | | 年月日 | | 概要 |
| 4 その他 | | | | |
| | | | | |
| 研究業績等に関する事項 | | | | |
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 1 著書 | | | | |
| 1. コンパクト版保育者養成シリーズ「教育・保育課程論」 | 共 | 2017年03月 | 一藝社 | 幼稚園・保育所・児童福祉施設における教育課程・保育課程・指導計画の意義・作成方法・作成するにあたっての留意点などを論じた文献である。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆した。「幼稚園教育要領」と教育課程の関係性、指導計画の意義、指導計画の実際と作成上の留意点に焦点を当て論述した。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：大沢裕、高橋弥生 執筆者：小尾麻希子、大沢裕、高橋弥生他12名 (全146頁 第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」45-53頁執筆) |
| 2. コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論」 | 共 | 2017年02月 | 一藝社 | 幼稚園・保育所における保育内容の歴史、保育内容を考える視点とその評価、乳幼児の発達に応じた保育内容など、保育内容全般について解説した文献である。第13章「5歳児の保育内容」を執筆した。5歳児の生活と保育内容との関係性、運動的側面・言葉及び思考力の芽生え・人間関係発達の側面と保育内容との関係性に焦点を当て、5歳児にとってふさわしい保育内容について、実践事例を提示しながら論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：大沢裕、高橋弥生 執筆者：小尾麻希子、大沢裕、高橋弥生他12名 (全146頁 第13章「5歳児の保育内容」117-125頁執筆) |
| 3. コンパクト版保育者養成シリーズ「保育者論」 | 共 | 2016年03月 | 一藝社 | 保育者の制度的な位置づけ、倫理感、役割と専門性、協働と専門職的成長について述べた文献である。第10章「現代における望ましい保育者像」を執筆した。筆者によるアンケート調査結果より、各経験年数・立場から捉えた「望ましい保育者像」と、その相違によって、望ましいと考える保育者像がどのように変容していくのかを提示し、保育者の専門的成長プロセスについて論述した。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：谷田貝公昭 執筆者：小尾麻希子、谷田貝公昭、新山裕之他12名 (全155頁 第10章「現代における望ましい保育者像」94-102頁執筆) |
| 4. 教育学科への招待 | 共 | 2015年04月 | 武庫川女子大学出版部 | PART II 保育・幼児教育・社会福祉・特別支援、01「幼児教育の原点」を執筆した。日本において最初に設立された東京女子師範学校附属幼稚園の創立から昭和初期にかけての保育と、主事を務めた倉橋惣三の保育論を取り上げ、現代の幼児教育・保育の幼児教育の原点となった実践と理論について解説した。 監修：武庫川女子大学文学部教育学科 (44-47頁「幼児教育の原点」を執筆) |
| 5. MINERVA保育実践講座第16巻「子育て支援の理論と実践」 | 共 | 2013年01月 | ミネルヴァ書房 | 子育て支援の理念及び目的、歴史文化的諸相、幼稚園、保育所、子育て支援センター、地域における子育て支援の取り組み、その実践例について著している。第8章から10章にかけては、子育て支援の効果及び課題、子育て支援の展望について研究的な側面から紹介した文献である。第3章第1節幼稚園における「子育て支援」の概要を執筆し、幼稚園における子育て支援の目的及び方法について、実践例を提示しながら述べた。 共著者：小尾麻希子、名須川知子他 (全176頁 第3章第1節 幼稚園における「子育て支援」の概要29-33頁執筆) |
| 6. 平成18年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」 | 共 | 2007年03月 | 兵庫教育大学附属幼稚園 | 平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。3歳児の年間指導計画、月別指導計画(4月～3月)、週指導計画例各1編を執筆した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、岸本美保子、小林みどり、白石肇 (全52頁、第1章9節年間指導計画(3歳児)6-7頁、第2章指導計画第1節月別指導計画(3歳児)12-22頁、2節週指導計画(3歳児)44頁執筆) |
| 7. 平成17年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」 | 共 | 2006年03月 | 兵庫教育大学附属幼稚園 | 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。4歳児の年間指導計画、月別指導計画(4月～3月)、週指導計画例1編を執筆した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、上月康 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|--|
| 1 著書 | | | | |
| 8. 平成16年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」 | 共 | 2005年03月 | 兵庫教育大学附属幼稚園 | 代、岸本美保子、山田有紀子、白石肇（全52頁、第1章9節年間指導計画（4歳児）8-9頁、第2章指導計画第1節月別指導計画（4歳児）23-33頁、2節週指導計画（4歳児）45頁執筆） 平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。5歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画1編を執筆した。 共著者：岡秀郎、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、前田真由美（全52頁、第1章9節年間指導計画（5歳児）10-11頁、第2章指導計画第1節月別指導計画（5歳児）34-44頁、2節週指導計画（5歳児）46頁執筆） |
| 2 学位論文 | | | | |
| 1. 「学びあう共同体」における幼児のアイデンティティ形成過程と教師のかかわり－関係論的分析から見えてくるもの－ | 単 | 2002年03月 | 神戸大学大学院総合人間科学研究科修士論文 | 幼稚園5歳児クラスにおける幼児の長期にわたる集団への参加過程に着目し、対象児のアイデンティティ形成過程及びその過程にかかわる教師の学びと変容について分析した。幼稚園という「共同体」における保育実践の中で、対象児にどのような集団への参加の軌道が創出されていくのか、その軌道の構成に共同体の構成員がどのようにかかわっていくのかを、関係論的視点から明らかにした。 |
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. 幼児教育における「協同的な学び」を推進する教師の援助－幼稚園5歳児クラスの事例にみる－（査読付論文） | 共 | 2012年03月 | 同志社女子大学総合文化研究所紀要第29巻 同志社女子大学総合文化研究所225-238頁 | 幼稚園5歳児クラスの遊びの中で捉えられた幼児の学びをフレーベルとカッツの理論を援用した「学びのマトリックス」によって示し、「協同的な学び」がどのような体験であり、どのような幼児の学びによって構成されているかについて述べた。また、教師の行った環境設定や援助について示し、幼児の自発性を尊重した保育の前提には、周到に準備された教師の働き掛けがあることを分析した。協同な学びを育むには、幼児自身で探求し、創意工夫しながら遊びの目的を実現していくこと、忍耐強く試すこと、課題を認識し、乗り越えようとする事等、カッツの示す学びの範疇の一つ「性向」を育んでいくプロセスが重要であると考察した。 共著者：埋橋玲子、小尾麻希子 |
| 2. 幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－ | 共 | 2008年11月 | 兵庫教育大学附属幼稚園 兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第18集 分担執筆1-8頁、8-16頁、48-52頁執筆 | 「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」をテーマとし、幼児の個の充実、仲間関係の深まり、その環境構成や教師の援助の在り方について実践事例を示しながら考察した。研究の概要1-8頁、3歳児の実践事例及び考察8-16頁、研究の成果と課題48-52頁を執筆し、各学年の幼児の発達に応じた環境構成及び教師の援助の在り方について示した。 共著者：小尾麻希子、名須川知子、高橋一枝他4名 |
| 3. 仲間関係を深める戸外遊びにおける環境構成及び教師の援助 | 単 | 2008年11月 | 兵庫教育大学附属幼稚園 兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第18集 8-16頁（第2章実践事例及びその考察として掲載） | 幼稚園3・4・5歳児クラスにおける戸外遊びの実践事例を分析した。幼児の仲間関係が深まる過程における環境構成と教師の援助は、幼児が「自分の居場所や基地をもって遊ぶ」「自然を肌で感じながら遊ぶ」「五感を通して感じ、気付いて遊ぶ」「開放感を味わって遊ぶ」「なりきって遊ぶ」、「全身を使ったルールのある遊び」「遊具や用具を使った集団遊び」の7つの視点から見出されることを明らかにした。 |
| 4. 幼小連携教育の展望－交流実践・教師の連携・カリキュラムの接続－ | 単 | 2008年03月 | 兵庫教育大学附属幼稚園 兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集Ⅰ 19-21頁（第2章研究の成果及び今後の展望として掲載） | 兵庫教育大学附属幼稚園と同附属小学校間で研究、実践を行った幼小連携教育に基づき、幼小連携教育の展望及び幼小連携教育を視野に入れた附属幼稚園のカリキュラムの再編成について考察した。幼小連携教育の展望を、教師の連携、交流実践、カリキュラムの接続の3点から論じた。 |
| 5. 「好きな遊び」の環境構成と教師の援助の変化を読み取る視点 | 単 | 2008年03月 | 兵庫教育大学附属幼稚園 兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集Ⅱ 69-77頁（第3章研究のまとめとして掲載） | 兵庫教育大学附属幼稚園の教育課程に示された「幼児の発達の姿」に即応して幼児の「充実感」について示した。さらに、環境構成と教師の援助の変化を読み取る視点を「幼児が出会う環境を創造する」「幼児の姿に応じて環境を再構成する」「幼児観・教材観・指導観を幼児の姿に即応して変容させる」の3つから示した。 |
| 6. 一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える－「うれしのタイム」の環境構成及び教師の援助の変化を読み取ることを通して－ | 共 | 2008年03月 | 兵庫教育大学附属幼稚園 兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集Ⅱ 分担執筆32-35頁、41-55頁、69-77頁、8頁執筆 | 各学年の幼児が味わう充実感及び充実感に繋がる過程について、実践事例を示しながら考察した。「充実感を捉える視点」は、本園の教育課程に示された幼児の発達の姿に即応してまとめ、一覧表に示した。また、「充実感に繋がる過程」に関わる教師の役割を、幼児が「出会う」環境の創造、環境の再構成、教師の幼児観・教材観・指導感の変容という3つの視点から考察した。 第1章研究の概要32-35頁、第2章2節4歳児の保育実践 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|---|-------------|---------------|--|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| 7. 幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－ | 共 | 2008年03月 | 兵庫教育大学附属幼稚園 兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集 I 分担執筆13-18頁、19-21頁執筆 | より41-55頁、第3章研究のまとめ69-77頁、第4章研究の成果と課題81頁、研究の概要32-35頁、4歳児の実践事例、研究のまとめ69-77頁、研究の成果と課題81頁を執筆した。 共著者：小尾麻希子、名須川知子、高橋一枝他4名 兵庫教育大学附属幼稚園と同附属小学校間で研究、実践を行った幼小連携教育について述べた。めざす子ども像を、豊かに「かかわり」「気付き」「表現する」子どもとし、幼小交流実践における子どもの学びについて実践事例を通して示し、幼小連携教育の展望及び幼小連携教育を視野に入れた附属幼稚園のカリキュラムの再編成について考察した。第2章研究の成果及び今後の展望、第3節5歳児と1年生との交流実践13-18頁、第4節交流実践の展望19-21頁を執筆した。 共著者：小尾麻希子、名須川知子、高橋一枝他4名 |
| 8. フィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情と就学前教育の在り方に関する考察 | 単 | 2005年12月 | 文部科学省 国立大学法人附属学校 文部科学省海外派遣研究報告書44-48頁 | 海外派遣研修によって捉えたフィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情から、日本の就学前教育の展望について考察した。幼児期から児童期にかけての教育において重要なことは、遊びを通して学ぶ体験的な学習の中で、五感を通して「感じる力」「表現する力」、物事を「探求する力」「考える力」「他者とコミュニケーションを図る力」「伝える力」等を培う体験や経験である点に論及した。 |
| 9. 「学びあう共同体」における幼児のアイデンティティ形成過程と教師のかかわり－関係論的分析から見えてくるもの－ | 単 | 2002年03月 | 『児童発達研究』第5巻 神戸大学発達科学部人間発達科学科児童発達論講座93-96頁 | 幼稚園5歳児クラスにおける幼児の長期にわたる集団への参加過程に着目し、対象児のアイデンティティ形成過程及びその過程にかかわる教師の学びと変容について分析した。幼稚園という「共同体」における保育実践の中で、対象児にどのような集団への参加の軌道が創出されていくのか、その軌道の構成に共同体の構成員がどのようにかかわっていくのかを、関係論的視点から明らかにした。 |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| | | | | |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 1. 千葉大学教育学部附属幼稚園における保育計画論の特質－「保育要領」刊行後の幼稚園資料に基づいて－ | 単 | 2017年05月20日 | 日本保育学会第70回大会（於：川崎医療福祉大学） 日本保育学会第70回大会発表要旨集261頁 | 千葉大学教育学部附属幼稚園において作成された昭和25年度・26年度の幼稚園資料に基づき、同園保育計画論の特質を明らかにすることを目的とした。25年度の「保育案」では、題目（題材）の選択に主眼が置かれた。26年度の「指導案」では、幼児の発達（主として社会性・ことば）に主眼を置いた目標の具体化が図られた。筆者のこれまでの研究上に提示した昭和22年度の同園「新保育」の趣旨、すなわち、環境による教育の趣旨を継承しつつ、教材観の明示及び目標の構造化を図った点に、その時代的特質を見出すものである。 |
| 2. 徳島大学学芸学部附属幼稚園における「生活保育」の実践化とその再考－「保育要領」（1948）刊行から「幼稚園教育要領」（1956）公布まで－ Realization and Reconsideration of “Life-Centered Child Education” at the Kindergarten Attached to the Tokushima University Faculty of Arts and Sciences—Focusing on the period between the publication of “HOIKU-YORYO” (The Guidelines of Kindergarten Education:1948) and the official announcement of “YOCHIEN-KYOIKU-YORYO” (The Essentials of Kindergarten Education:1956)－ | 単 | 2016年09月18日 | 国際幼児教育学会第37回大会（於：宇都宮大学） International Association of Early Childhood Education 37th Annual Convention Program, 55-56, 2016. | From the findings of the research, functions promoting growth and development specific to five-year-olds were selected and summarized in the “Ability Table of 5-Year-Olds” (1954). The Ability Table is an important index that identifies how experiences leading to various selected abilities were integrated into the natural life of a child (teaching unit). On examining the child education plan that touches upon the unit title “YOCHIEN-NO ATARASHII O-UCHI,” which was published in 1954, it was discovered that teaching units closely linked to children’s living environment and hobbies had been selected, and that using an index referred to as the Ability Table, experiential content desirable for children’s learning at the kindergarten level was selected and used for developing the teaching unit. |
| 3. 徳島大学学芸学部附属幼稚園における教育内容・教育方法の検討過程とその着眼点－「保育要領」（1948）から「幼稚園教育要領」（1956）公布までを対象に－ | 単 | 2016年07月02日 | 日本カリキュラム学会第27回大会（於：香川大学） 日本カリキュラム学会第27回大会発表要旨集録51 - 52頁 | 「保育要領」（1948）刊行から「幼稚園教育要領」（1956）公布に至る期間を対象とし、同園のカリキュラム及び保育計画にみる教育内容・教育方法の検討過程とその着眼点について、現在、鳴門教育大学附属幼稚園に所蔵されている当時の研究・実践資料を用いて分析した。自然な幼児の生活（単元）の中に、いかに種々の能力につながる経験が組み込まれているのか、それを読み取る指標として「5才児の能力表」が開発され、能力という概念に着目して、教育内容が検討された点を明らかにした。幼児を取り巻く生活環境と彼らの興味・関心が交差するとこ |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-------------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 4. “Starting Strong III” が示唆する幼児教育カリキュラムにおける「学びの領域」の検討—新しい能力観及び「幼稚園教育要領」との比較を通して— | 単 | 2015年07月05日 | 日本カリキュラム学会第26回大会（於：昭和女子大学） 日本カリキュラム学会第26回大会発表要旨集録147-148頁 | るに選択された単元「幼稚園の新しいおうち」（1954）の保育計画を検討し、幼児の自己活動としての遊びが、種々の能力につながるような経験として位置づけられていく過程を明らかにした。 OECDの調査報告書“Starting Strong III”において示唆された幼児教育カリキュラムにおける「学びの領域」と日本の「幼稚園教育要領」に示されている5領域とを比較検討した。前者は、「探究」「遊び」「子どもの相互作用」の3つの側面からカリキュラムに統合される領域が示唆され、探究の領域では身に付けていくことが難しいと捉えられた、いわゆる対人関係のスキルを獲得していく手段として、「遊び」と「子どもの相互作用」を促進する領域横断的な学習を位置づけていることを明らかにした。この点は、豊かな遊びと子どもの相互作用、協同を基盤として、各領域に掲げたねらいを達成していくことを根本に据えた「幼稚園教育要領」とは相違するものであること、さらには、前者が個人の学びをいかに育んでいくのかに焦点を当てているのに対し、後者は個と集団の育ちの関係性を重視した学びに焦点を当てていることを解明した。 |
| 5. 倉橋惣三の教育思想と実践をつなぐ保姆の教育観 | 単 | 2015年05月 | 日本保育学会第68回大会（於：椛山女学園大学） 日本保育学会第68回大会発表抄録集ID717 | 倉橋惣三の保育論を真に解釈し、実践したと評される人物、岡山県師範学校附属幼稚園主任保姆岡政の教育観及び明治後期から昭和初期における同附属幼稚園の実践について分析した。岡の教育観は、倉橋の提唱した「誘導保育」論の二つの側面、すなわち幼児の自発性の尊重と目的活動への誘導の両側面に関する知識と理解に基づいて形成されているものであることを明らかにした。 |
| 6. 「誘導保育」における生活の系統化と統合化—東京女高師附属幼稚園「保姆の記録」に基づいて— | 単 | 2014年11月 | 日本乳幼児教育学会第24回大会（於：広島大学） 日本乳幼児教育学会第24回大会研究発表論文集108-109頁 | 東京女子高等師範学校附属幼稚園保姆徳久孝子による誘導保育の記録「わたくし達の自動車」（1932）及び自由遊びの記録「五月の一週間」所収「山の組」（1932）を検討した。「誘導保育」と「自由遊び」の相互性の観点から、「誘導保育」には、「生活の系統化」及び「生活の統合化」という原理が内在していることを明らかにした。 |
| 7. 幼児の活動における認知・情意・表現の系統性—東京女高師附属幼稚園「保姆の記録」に基づいて— A System of Cognition, Emotions, and Expressions in Children's Activities—Based on the “Records of a Kindergarten Teacher” from the Kindergarten attached to Tokyo Women's Higher Normal School— | 単 | 2014年09月 | 国際幼児教育学会第35回大会（於：一般財団法人人材開発センター富士研修所） International Association of Early Childhood Education 35th Annual Convention Program, 76-77, 2014. | 東京女高師附属幼稚園保姆村上露子の保育記録「わたくし達の特急列車『うさぎ号』」（1932）を、幼児の活動における認知・情意・表現的側面に着目して検討した。幼児の生活に根差した汽車を「主題」とした保育、すなわち「誘導保育」には、生活の仕組みを再現する構造、社会認識を生み出す構造、幼児の汽車への強い思い入れを形成する構造があることを明らかにした。 |
| 8. 仲間との「つながり」を育む保育プロセス—ごっこ遊びの生成プロセスを通して— | 単 | 2014年05月 | 日本保育学会第67回大会（於：大阪総合保育大学） 日本保育学会第67回大会発表要旨集録198頁 | 幼稚園4歳児クラスにおける幼児のごっこ遊びの生成プロセスを分析することから、幼児が仲間とつながる要因と保育プロセスについて考察した。仲間とつながる要因として、「保育者」「イメージ」「言葉」「動き」があげられることを実践記録より分析し、特に、保育者は「動き」を伴った幼児の表現に着目し、幼児同士をつなぐ役割を担っていることを明らかにした。 |
| 9. 協同的な学びを育む保育プロセスⅡ—カットの理論を援用して— | 単 | 2013年05月 | 日本保育学会第66回大会（於：中村学園大学） 日本保育学会第66回大会発表要旨集録190頁 | 先行研究で得られたデータに加え、より長期にわたって保育記録を収集し、幼児の協同的な学びの質的变化を捉えた。協同的な学びの質的变化は、共有する遊びの目的が創り出される、目的達成に向かった知識や技能を伝え合う、遊びのイメージや遊び方を共有する、課題を共有する、課題を解決するプロセス変化として捉えられることを明らかにした。 |
| 10. 協同的な学びを育む保育プロセスに関する考察—カットの理論を援用した保育記録の分析を通して— | 単 | 2012年12月 | 日本乳幼児教育学会第22回大会（於：武庫川女子大学） 日本乳幼児教育学会第22回大会研究発表論文集204-205頁 | 幼稚園5歳児クラスの幼児の遊びに着目し、遊びの中で捉えられた幼児の学びをカットの示す4つの学びの範疇「知識」「技能」「感情」「性向」から分析し、それらの学びがどのような幼児の協同する姿、協同的な学びと繋がっているのか、また、教師の環境構成、援助とどのように繋がっているのかを探った。協同的な学びを育む保育プロセスには、「感情」に下支えされた「知識」「技能」の習得、「性向」の高まり等、幼児の学びの様相に応じた教師の働き掛けが重要であること、また、幼児が他者の学びについて知ったり、関係をつくったりする体験の場が重要であることを明らかにした。 |
| 11. 保育の質の向上—「風通しを良くする」観点から—保育現場のクリティカル・シンキング（批判的思考）— | 共 | 2012年05月 | 日本保育学会第65回大会自主シンポジウム（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集録140頁 | 実践現場において、保育の質の向上を図るには、研修や保育評価の場を園の内部に留めるのではなく、何らかの方法で外部との交流をもつことの重要性について提案した。教師間で共有できる「評価の規準」として、後掲の「チェック・システム1・2・3」を |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 12. 保育者の職能向上に繋がる研修Ⅰー実践知の可視化を求めてー | 共 | 2012年05月 | 日本保育学会第65回大会（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集752頁 | の活用し、子どもの育ちや課題、それらに応じた保育構築について考え合う研修の重要性について発表した。 共同研究者：埋橋玲子、小尾麻希子、武藤朱美、山本真理子 保育者の職能向上に繋がる自主研修会を求め、自主研究会で実践を語り合うこと及びデュエイの教育理論を援用しなら考察することを試みた。筆者は、デュエイの述べる「子どもの中にある衝動」に着目し、衝動的表現を意図的表現に高めていく保育の試みについて自主研修会で語り、研修を進めた経緯について発表した。 共同研究者：多田琴子、小尾麻希子、小林みどり、坂根早織、大西雅裕 |
| 13. 子どもの育ちがみえる保育評価の試みⅢーごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目してー | 共 | 2012年05月 | 日本保育学会第65回大会（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集184頁 | 先行研究で用いた「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」「教師の関わりに関するチェック・システム」に加え、幼児の姿を12の視点から分析した「集団の育ちに関するチェック・システム」を開発した。その結果、これら3つのチェック・システムを活用することにより、「子どもの遊びを見る視点の明確化ー保育を構築する視点の明確化ー集団の育ちによって転換していく保育のねらい」というサイクルの中で教師の具体的な指導計画作成及び働き掛けが生み出されることを明らかにした。 共同研究者：小尾麻希子、埋橋玲子 |
| 14. 園内研修または自己評価のオリジナルリティを求めて | 共 | 2011年12月 | 日本乳幼児教育学会第21回大会ラウンド・テーブル（於：東京成徳大学） 日本乳幼児教育学会第21回大会研究発表論文集40-41頁 | 保育の質の向上に繋がるオリジナルな園内研修や自己評価について協議した。筆者は、保育現場において継続しやすい保育評価として、前掲の「チェック・システム1・2・3」を活用した自園の取組を紹介した。 共同発表者：埋橋玲子、小尾麻希子、安達譲、島村和宏、丸山和彦 |
| 15. 協同的な学びを育む保育の試みⅠー5歳児の遊びを通してー | 共 | 2011年12月 | 日本乳幼児教育学会第21回大会（於：東京成徳大学） 日本乳幼児教育学会第21回大会研究発表論文集144-145頁 | 幼稚園5歳児の遊びを観察し、実践記録を分析し、協同的な学びを育む保育プロセスについて「幼児同士で遊びを創り出すプロセス」「環境が創造されるプロセス」「教師の働き掛けが行われるプロセス」の3点から考察した。その結果、幼児の姿、教師の環境構成、援助は「遊びが始まる時」「遊びが展開していく時」「遊びが変化していく時」「変化した遊びを継続していく時」といった4つのプロセスに応じて変化していることを見出し、幼児の遊びの中の学びに応じて、保育のねらい、環境構成、援助を転換していく教師の専門的な役割について言及した。 共同研究者：小尾麻希子、多田琴子 |
| 16. 子どもの育ちがみえる保育評価の試みⅡーごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目してー | 共 | 2011年05月 | 日本保育学会第64回大会（於：玉川大学） 日本保育学会第64回大会発表要旨集13頁 | 先行研究で用いた「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」に加え、教師の関わりを37の視点から分析した「教師の関わりに関するチェック・システム」を開発した。これら2つのチェック・システムを活用することにより、保育の方向性や意図が整理され、子どもの育ちに応じた教師の関わりについて見直す視点が得られたことに言及した。 共同研究者：小尾麻希子、埋橋玲子 |
| 17. 子どもの育ちがみえる保育評価の試みーごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目してー | 共 | 2010年05月 | 日本保育学会第63回大会（於：松山東雲女子大学） 日本保育学会第63回大会発表要旨集64頁 | 幼児のごっこ遊びへの参画スタイルに着目し、保育実践を保育の「構造評価」「プロセス評価」「アウトカム評価」の3つの保育評価方法を用いて分析した。プロセス評価で用いる「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」を創出し、幼児の姿を16の視点から分析した。オリジナルのチェック・システムを活用して評価することにより、子どもの育つ方向が見えやすくなり、子ども一人一人に必要な教師の関わりについて考える視点が構築されると結論づけた。 共同研究者：小尾麻希子、埋橋玲子 |
| 3. 総説 | | | | |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 1. 研究集録（平成28年度）『継続的幼稚園観察から捉えた「協同的な学び」を育む保育の構造』 | 共 | 2017年03月 | 武庫川女子大学文学部教育学科「教育演習」における研究成果として、平成28年度武庫川女子大学教育研究会研究発表会にて発表 | 平成28年度「教育演習」における研究の成果を、「教育演習」に所属する教育学科3年生ゼミ生と共にまとめた研究集録である。市立幼稚園における継続的な保育観察を通して、幼児同士の「協同的な学び」を育む保育の過程を明らかにした。また、複雑な様相を織りなすその保育の構造を、「保育構造図」と |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|--|-------------|---------------|---|--|
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 2. 研究発表『継続的幼稚園観察から捉えた「協同的な学び」を育む保育の構造』 | 共 | 2017年02月24日 | 武庫川女子大学教育研究会 第34回研究発表会発表要旨集 15-16頁 | して提示した。 「教育演習」に所属する教育学科3年生ゼミ生11名による研究の成果を、平成28年度武庫川女子大学教育研究会研究発表会において発表した（ゼミ生による発表）。市立幼稚園における継続的な保育観察に基づいて、幼児同士の「協同的な学び」が育まれる過程を明らかにした研究である。また、複雑な様相を織りなすその保育の構造を、「保育構造図」に表して提示した。研究の成果は、「研究集録」としてまとめ、観察協力園の園長・教諭へフィードバックした。その内容について助言を得るなどして、次年度の卒業研究へとつなげている。 |
| 3. 農繁期託児所と子育て・家庭教育との関係をめぐる歴史的考察 | 単 | 2016年07月 | 平成27年度公益財団法人前川財団家庭教育研究助成報告書 | 昭和2年に「兵庫県農繁託児所奨励規程」を制定・公布した兵庫県の事例を取り上げ、農繁期託児所と子育て・家庭教育との関係を明らかにすることを目的とした。特に、農村産業組合が運営する農繁期託児所の事例に着目した。子育てを地域社会の共同のものとして考えた点に、また、労働を通じた女性の自立と子育ての関連性を提唱した点において、女性の子育て観に大きな影響を与えたと結論づけた。 |
| 4. 日本の近代化における家庭・幼児教育思想に関する研究 | 共 | 2015年07月 | 平成26年度公益財団法人前川財団家庭教育研究助成報告書 | 安井てつ、E. P. Huges、倉橋惣三の三者の家庭・幼児に関する教育思想を研究の俎上にのせ、明治初期の近代化を支えた相關的・複合的な歴史事象、すなわち、家庭の育成と家庭・幼児教育の出現に光を当てた研究。女性固有の役割が家庭・幼児教育の文脈において位置づくプロセスを明らかにした。 |
| 5. 協同的な学びを育む保育の創造－伝え合いを支える教師の援助と環境構成－ | 共 | 2013年03月 | 日本生活科・総合的学習教育学会 日本生活科・総合的学習教育学会第22回全国大会紀要89-115頁 | 幼児の協同的な学びと育ち、協同的な学びを育む教師の援助及び環境構成、小学校教育との接続を考える視点について、実践事例を基に考察した。協同的な学びを育む教師の援助及び環境構成の重点を、幼児同士の「試行錯誤する」「考え合う」「言葉で伝え合う」プロセスを創り出すこととし、また、幼児の姿を捉える6つの視点「安心度」「夢中度」「人のかかわり」「イメージの共有」「他者と共に遊びの目的創造」「他者と共に遊びの目的追求」を設定し、幼児の遊びの中のエピソードを記録、評価する自己評価法を用いて分析した。 日本生活科・総合的学習教育学会指定研究（明石市立大観幼稚園） （全19頁、第1章研究の概要、第2章研究の目的、第3章研究の仮説、第4章研究の方法1-5頁、第5章研究の内容2節実践事例2項5歳児の実践事例8-13頁、第6章研究のまとめ14-19頁執筆） |
| 6. 親育てプログラムとその評価システムの開発による幼稚園の教育課程及び地域子育てに関する開発研究 | 共 | 2007年03月 | 文部科学省 兵庫教育大学附属幼稚園 文部科学省研究開発実施報告書 | 文部科学省より研究開発の指定を受け、幼稚園における子育て支援の在り方に関する研究開発を行う。筆者は、「親育てプログラム」の開発・試行について研究を推進し、保護者の保育参加、子育て講演会、子育て相談等を通して、いかに保護者の子育てについての意識が変容したか、今後の研究開発について、文部科学省へ報告書を提出した。 共同研究者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、岸本美保子、小林みどり、白石肇、宮脇由美、その他、兵庫教育大学教員5名、子育て支援プロジェクト研究会より4名 （全81頁、第2章研究開発の内容第1節「親育てプログラム」の開発・試行、第2節研究の結果14-40頁、第3章今後の研究開発の課題41頁執筆） |
| 7. 3歳児保育指導案 | 単 | 2007年03月 | 兵庫教育大学教育文化資料館 | 平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園において作成した3児学級指導案2編を兵庫教育大学教育文化資料館にて所蔵・公開している。 |
| 8. 研究発表・公開保育「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」 | 共 | 2006年11月 | 平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会 兵庫教育大学附属幼稚園 | 研究テーマを「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」として進めた平成17・18年度兵庫教育大学附属幼稚園における研究・実践を公開した。3歳児の公開保育を行い、研究経過報告及び幼児の「仲間関係を深める戸外遊び」をテーマにした提案発表を行った。 共同発表者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、岸本美保子、小林みどり、白石肇、宮脇由美 |
| 9. 研究報告書・指導案集『一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える』 | 共 | 2006年01月 | 兵庫教育大学附属幼稚園 | 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載している。研究経過報告書、4歳児1月の指導計画、1月第3週指導計画、公開保育指導案を執筆した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、山田有紀子 （全42頁、研究経過報告4-16頁、4歳児1月指導計画31頁、4歳児ひまわり組1月第3週指導計画33頁、公開保育指導案34-36頁執筆） |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|---------------------|--|---|
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 10. 研究発表・公開保育『一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える』 | 共 | 2006年01月 | 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会 兵庫教育大学附属幼稚園 | 研究テーマを『一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える』として進めた平成16・17年度兵庫教育大学附属幼稚園の研究、実践を公開した。4歳児の公開保育を行い、研究経過報告及び提案発表を行った。概要は、前掲の兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集Ⅱに記載の通りである。 共同発表者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、山田有紀子 |
| 11. フィンランド・スウェーデンの教育の実情 | 共 | 2005年11月 | 文部科学省 国立大学法人附属学校 国際的な視野・識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣 研修報告書 | 海外派遣研修によって学んだフィンランド・スウェーデンの就学前教育、初・中・高等教育、特別支援教育の実情及び日本における教育の展望について報告した。研修視察報告「フィンランドの学童クラブ」「フィンランドの就学前教育」、調査研究課題成果報告「フィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情と日本における就学前教育の在り方に関する考察」を執筆した。 (全60頁 第2章研修視察報告「フィンランドの学童クラブ」13頁、「フィンランドの就学前教育」18頁、第3章調査研究課題成果報告「フィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情と就学前教育の在り方に関する考察」44-48頁執筆) |
| 12. 研究報告書・指導案集『幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－』 | 共 | 2005年01月 | 平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会 研究報告書・指導案集 | 平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載している。研究経過報告書、5歳児1月の指導計画、1月第3週指導計画、公開保育指導案を執筆した。 共著者：岡秀郎、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、前田真由美 (全46頁、研究経過報告4-20頁、5歳児1月指導計画41頁、5歳児すみれ組1月第3週指導計画43頁、公開保育指導案44-46頁執筆) |
| 13. 研究発表・公開保育『幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－』 | 共 | 2005年01月 | 平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園・小学校 研究発表会 兵庫教育大学附属幼稚園 | 研究テーマを『幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－』として進めた平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園の研究、実践を公開した。5歳児の公開保育を行い、研究経過報告及び提案発表を行った。概要は、前掲の兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集Ⅰに記載の通りである。 共同発表者：岡秀郎、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、前田真由美 |
| 14. 研究報告書「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりするようになるための物的・空間的環境の構成」 | 単 | 2004年11月 | 平成16年度文部科学省 「幼稚園教育課程協議会」中央協議会 「教育課程協議会研究 成果の要旨集」 | 平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会における発表の要旨を掲載している。発表要旨は、前掲の研究発表に記載したものを参照。 (124-125頁執筆) |
| 15. 研究発表「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりするようになるための物的・空間的環境の構成」 | 単 | 2004年11月 | 文部科学省 文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会 研究会発表 | 協議主題c「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりするようになるためには、どのような物的・空間的環境の構成が必要か」について、幼小連携教育で進めている実践事例に基づいて発表した。環境構成の重点として、「かく場所の魅力」をあげ、さらに、開放感を味わってかく、かいたものを使って遊ぶ楽しさ、かく場所に適した材料、人とのかかわりによって豊かになるイメージ、人との交流によって生み出される心の揺れ動きが起る教師の援助の重要性について述べた。 |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| 1. 農繁期託児所と子育て・家庭教育との関係をめぐる歴史的考察 | 単 | 2015年9月～ 2016年8月 | 公益財団法人前川財団 | 平成27年度公益財団法人前川財団家庭教育研究助成 |
| 2. 日本の近代化における家庭・幼児教育思想に関する研究 | 共 | 2014年9月～ 2015年8月 | 公益財団法人前川財団 | 平成26年度公益財団法人前川財団家庭教育研究助成 |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|----------------|------------|
| 1. 2017年04月～現在 | 中国四国教育学会 |
| 2. 2017年04月～現在 | 関東教育学会 |
| 3. 2016年06月～現在 | 日本子育て学会 |
| 4. 2016年01月～現在 | 幼児教育史学会 |
| 5. 2015年01月～現在 | 日本カリキュラム学会 |
| 6. 2014年04月～現在 | 日本子ども社会学会 |
| 7. 2014年04月～現在 | 国際幼児教育学会 |
| 8. 2010年04月～現在 | 日本乳幼児教育学会 |
| 9. 2000年04月～現在 | 日本保育学会 |